

・背景

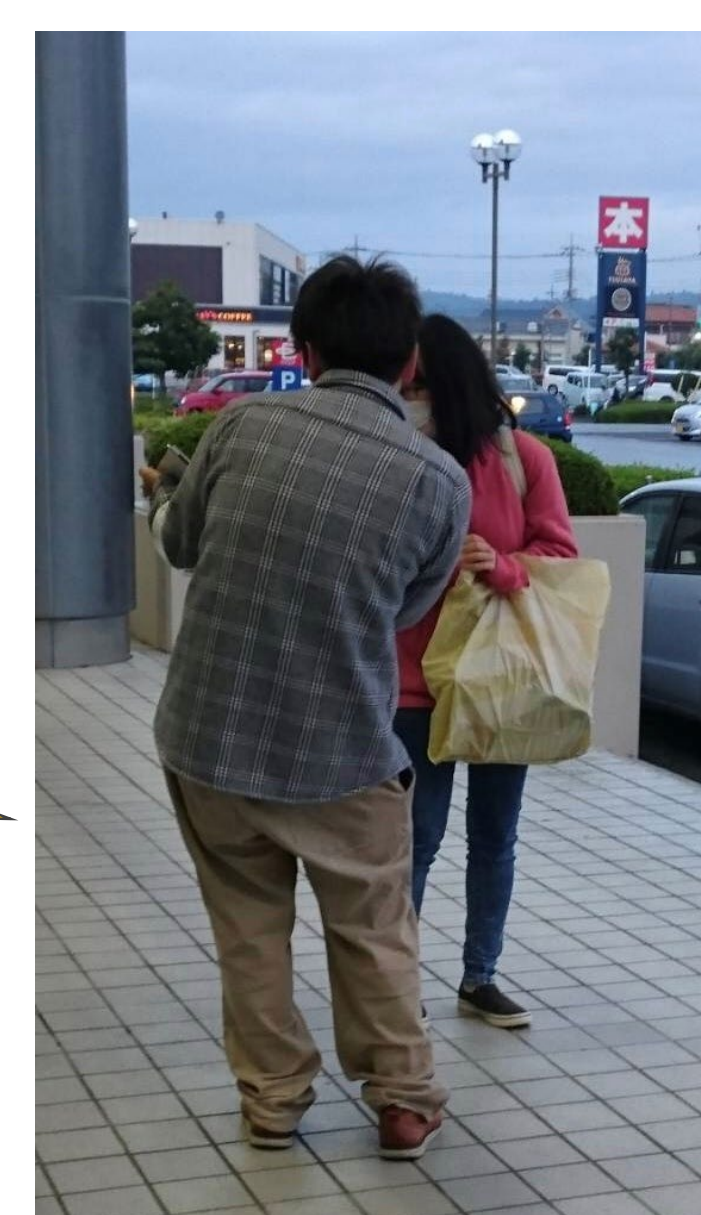
矢板市では、人口減少が続いているにもかかわらず、ごみの排出量が増加し続けている。その理由として、市民のごみの分別がおおざっぱであり、本来リサイクルできる者がごみとして処理されてしまっていることが挙げられる。また、ごみ焼却施設の改装に伴う稼働停止も決定しており、増加し続けるごみに対するの対策が急がれている。

・目的

矢板市民のごみの分別状況、分別に対する意識、矢板市の現状の認知度について調査し、矢板市民間に見られる課題を発見する。そこから矢板市に対して解決策の提案を行う。

方法

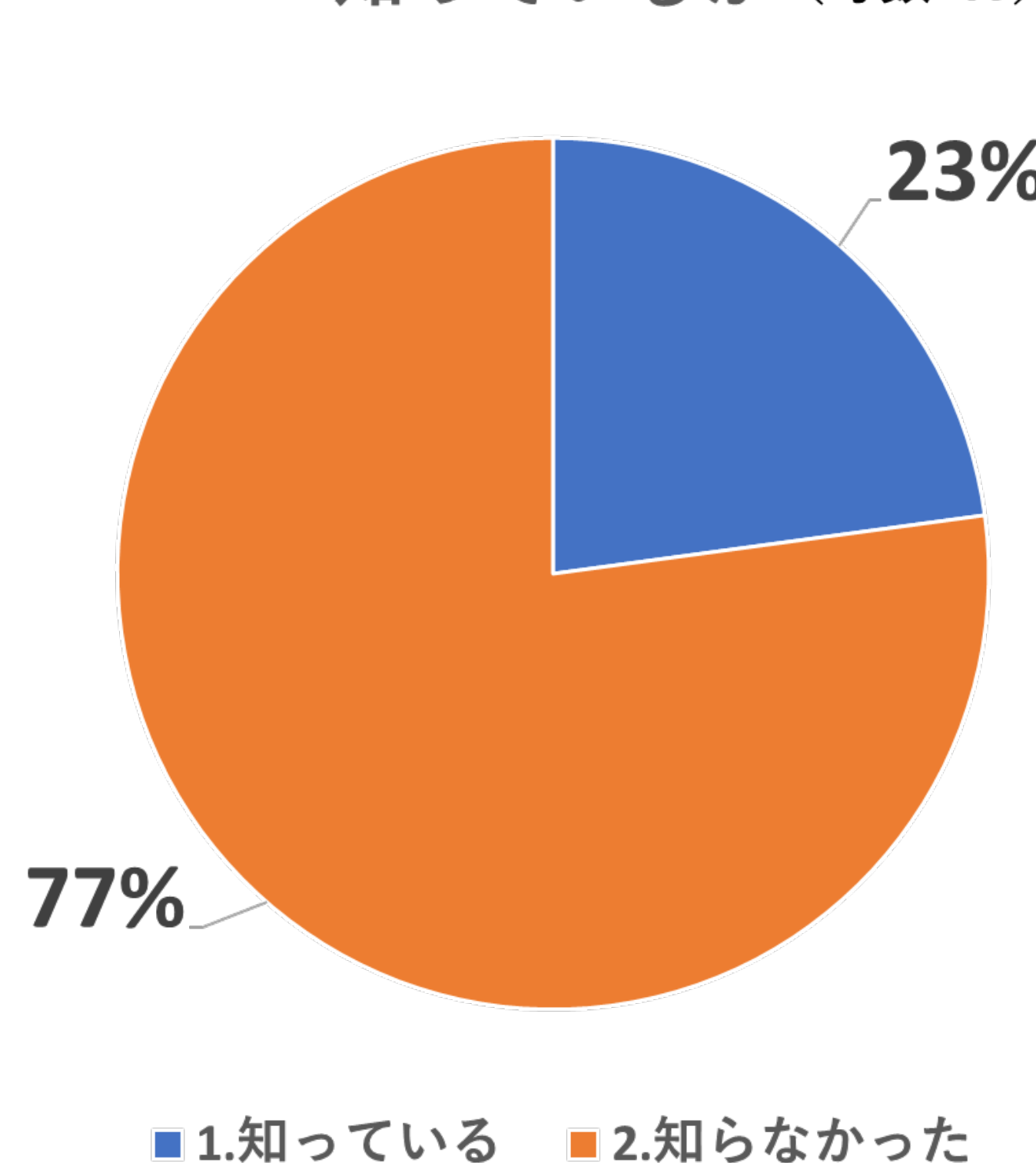
矢板市のゴミ処理は追いついていないことが現状であるため、他市のゴミ問題に対する施策の事例調査とベイスア矢板店に協力をいただき、出入り口で調査票を用いて市民に対してインタビュー調査を実施



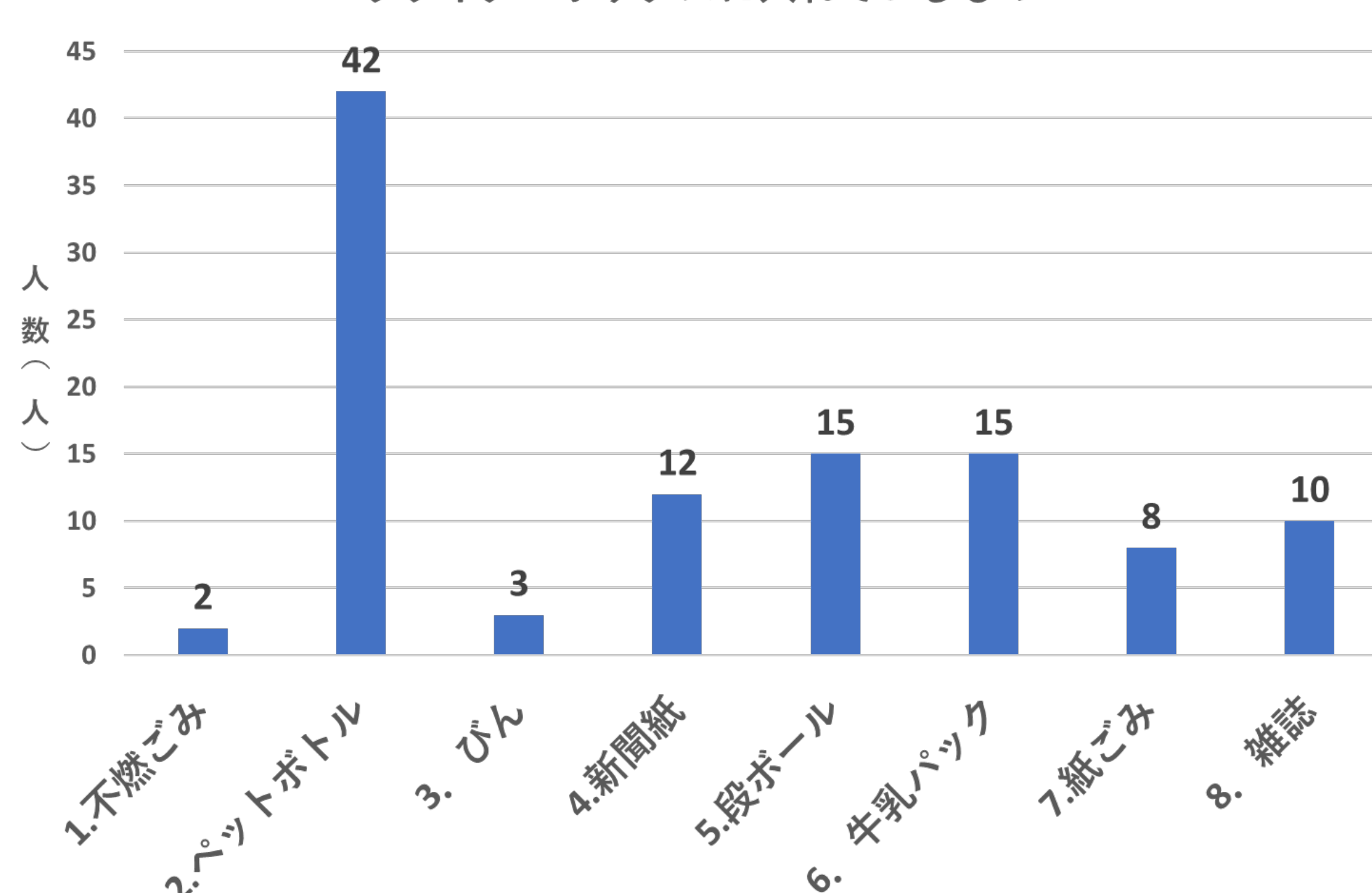
・分析結果

矢板市のごみの量が年々増加していることを

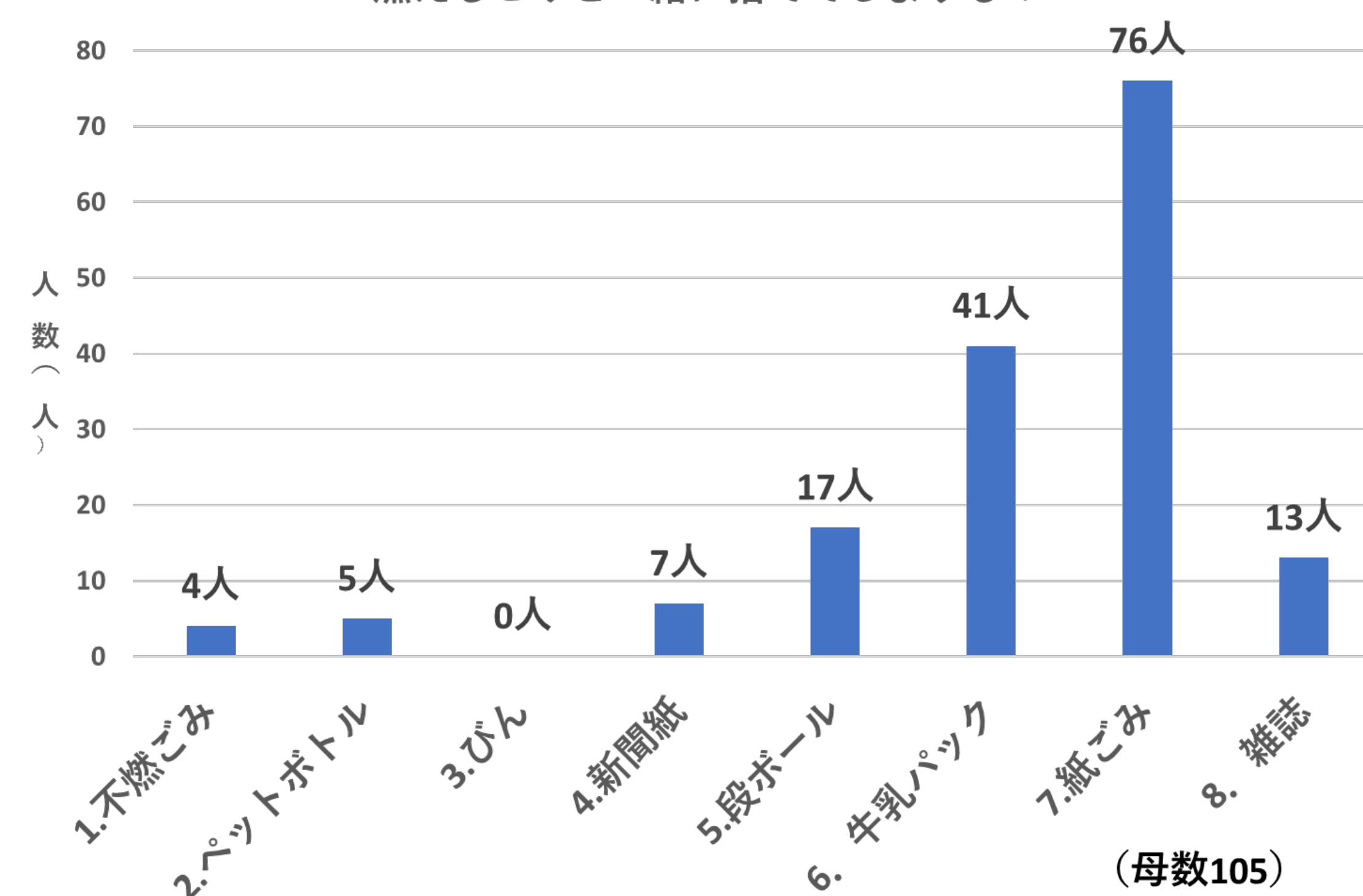
知っているか (母数105)



リサイクルボックスに入れているもの



燃えるごみと一緒に捨ててしまうもの



調査の結果、8割近くの人が矢板市のごみが増加し続けているという現状を知っていなかった。また、リサイクルボックスのペットボトル以外の使用率が低いこと、リサイクルすることができる紙ごみが燃えるごみとして処理されてしまっているということが分かった。このことから、市民に矢板市のごみが増加し続けているという現状をよりしっかりと認識してもらう、そしてリサイクルボックスの使用率を高めるとともに、ごみの分別の徹底を図ることが必要であると感じた。また、世代や男女別等に分けての分析も行ったが、母数やアンケートを得られた世代・性別の偏りなどから正確な結果は得られなかった。

・提案

矢板市のゴミ問題に関しての情報を市民へ周知する方法とゴミの減少につながる方法について

・知ってもらうことから始まる

矢板市のゴミ問題に対して、市民が行動を起こすようにするためには、現状の問題を知ってもらうことが第一である。そこで、矢板市のゴミの増加を矢板市民に知ってもらうための方法として、コンビニやスーパーマーケット等の日常生活においてよく利用されている店舗に協力を仰ぎ、一定期間だけ買い物客の会計時に矢板市のゴミ問題に関するチラシを渡してもらう方法とメディアで報道してもらう方法の二つを提案したい。前者であれば、夕飯などの買い物をしに来た主婦や軽食を買いに訪れた若者を通して多くの人に周知することができ、後者であれば、テレビやラジオ、新聞紙といった多くの媒介を通して不特定多数の市民に告知することができるだろう。

・ゴミ捨て場を工夫

市民の多くがゴミ捨て場を利用しているため、ここに手を加えることができれば、より多くの市民がゴミ問題に関与できるようになるのではないかと私たちは考えた。そこで、ゴミ捨て場をすべて分別して捨てる形式をとるようにし、近くにリサイクルボックスを設置することを提案したい。メリットとして、家庭ででたゴミの大半が最終的にゴミ捨て場へとたどり着くため、ゴミ捨て場を分別形式にしておくことで多くのゴミを分別することが可能になる点とゴミ捨て場の近くにリサイクルボックスがあれば「リサイクルボックスに入れるのが面倒だから」という理由でリサイクルできるものをゴミとして出すことを防ぐことが可能になる点である。また、可能であれば、ゴミ捨て場を誰でも使えるようにすることで、より多くのゴミを分別・リサイクルの対象とすることができるだろう。



ゴミ捨て場改変後の想定図